

2013年度

JICA研修コースの実績紹介

コース名 : 「コンポスト事業運営B」



(公財) 北九州国際技術協力協会 研修部

2014年1月20日

1. 研修コースの内容

1)コースリーダー / 城戸 浩三



2)研修コース 名

和文:コンポスト事業運営B

英文:Management of Composting Project B

3)研修受け入期間: 2013/11/11 ~2013/11/29

4)参加研修員/ 9名 (6カ国)

【参加研修員の国名と位置】

参加研修員 6ヶ国 9名



エルサルバドル共和国
 Republic of El Salvador



1名

グアテマラ共和国
 Republic of Guatemala



1名

ペルー共和国
 Republic of Peru



1名

ブラジル連邦共和国
 Federative Republic of Brazil



2名

ボリビア多民族国
 Plurinational State of Bolivia



2名

ウルグアイ東方共和国
 Oriental Republic of Uruguay



2名



2.研修の背景と目的

現状の整理



①南米諸国の一般廃棄物の約60%は、有機ゴミとなっている。

②廃棄物管理としてコンポスト化(堆肥)が有効な手段と評価されている。

③コンポスト事業の課題として品質管理・市民参加型管理の促進。

④流通システムの確率が必須。

事業運営のための技術と
ノウハウの移転

3. 研修コースの課題と目標

3-1. 研修の課題

- ①最終処分場の延命化を図るため各家庭から出る60%以上の生ゴミを如何に良質のコンポストにするか？
- ②コンポスト化への時間を如何に短縮するか？



特定の限定された研修テーマのため短い研修期間(15日間)となり、カリキュラムと現場研修を上手く組み合わせ充実した研修内容を検討した。

3-2. 研修目標

案件
目標

廃棄物管理行政やコンポスト化技術を実践習得し、それぞれの国に適したコンポスト事業の計画が設定できる。

自国での検討～実施



日本での研修



コンポスト(高倉方式)の種菌作成

単元目標①

日本における国・自治体の廃棄物について政策実施体制の概要が説明できる。

単元目標②

コンポストの概要、技術内容及びマーケティング方法・流通システムについて説明できる。

単元目標③

コンポスト事業改善のための計画が策定できる。

4. 達成度(単元評価)

単元目標①： 日本における国・自治体の廃棄物について政策実施体制の概要。

研修員は固形廃棄物に関する責任者でもあり、我が国や自治体の廃棄物行政を理解するために必須な科目である。法制度や仕組みは各国の事情により条件は異なるが、住民との関わりについての関心は高く日本の事情の理解は得られた。

コンポスト推進に重要な家庭ゴミの収集問題について日本の法令や北九州市の仕組み、住民の協力実態が今後の彼らの進むべき方向のヒントになった。

単元目標②： コンポストの概要、技術内容及びマーケティング方法・流通システム。

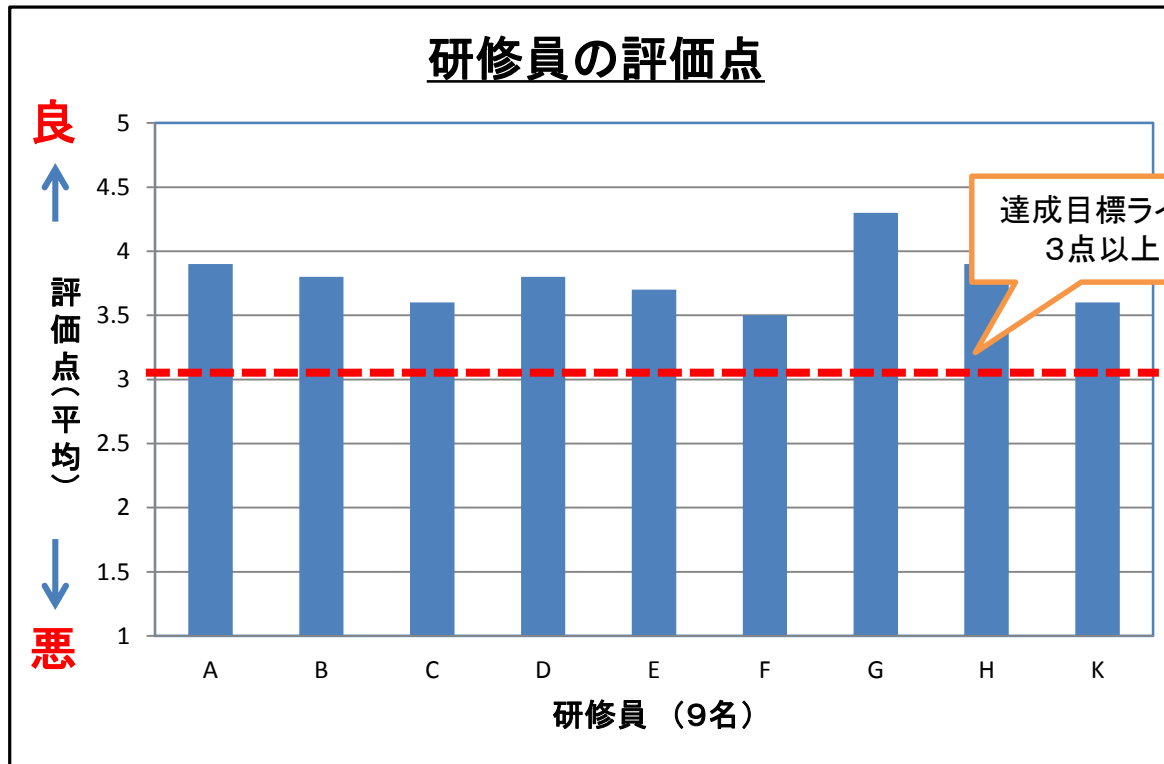
各研修先で質問も大変活発で単なるコンポスト化に留まらず、学問的な講義に興味を示すなどコンポスト化手法の本質的な比較まで一応は理解できた。

自国でのコンポスト化への取り組みに対しては、日本式はあくまでも参考例として自国で最適なコンポスト事業化の計画を立てるよう説明している。

単元目標③： コンポスト事業改善のための計画。

研修員の大きなテーマである良質のコンポスト製造およびコンポスト化の時間短縮は、今回の研修でほぼ理解できた。アクションプランの提案は、帰国後に廃棄物関係者と共に検討するには十分な理解と内容であった。

4. 達成度(研修員の評価)



- ◆達成度の評価指数 (5つの観点)
 - 1) テーマ選定の妥当性
 - 2) 自国の現状を踏まえた実現性
 - 3) 研修成果の活用性
 - 4) 資料のわかりやすさ
 - 5) 発表態度
- ◆5つの観点からカリキュラム講師(評価者)より5点満点で評価。
- ◆平均評価が3点以上であれば達成とした。

上表の如く、9名とも平均点が3点以上の評価であり達成度をクリアーした。各研修員の理解度は良く、帰国後の活躍が大いに期待される。

5. コースリーダーの研修員評価



伊万里はちがめプランでの研修

- 研修員a: 市の都市部と農村部の清掃サービス監督をしている。コンポスト事業に関する問題点を把握している。
- 研修員b: 市で固形廃棄物管理の包括的管理を担当している。有機廃棄物を100%処理することを目指しており、APは実効性がある。
- 研修員c: 今回の研修に一番感動した研修員。現在の現地コンポストセンターでの問題点(品質の悪いコンポスト、遅いコンポスト化)について日本式に目覚めた様子であった。

研修員d: 州から各市に環境基金を提供する立場にある。今回の研修で今後の技術指導を実行するための十分な成果を得た様子であった。APは発展が期待できる。

研修員e: 市のコンポストプラント業務の調整役。今回の研修で十分な結果を出しており、帰国後のAPの成果が期待できる。

研修員f: 5市町村連合(固形廃棄物の総合管理強化のため設立)の管理者として分別収集とコンポスト事業計画を担当している。APはコンポスト技術の改善で大いに期待できる。

7. 研修員への質問表 (その1)

Q1. 単元目標を達成しましたか？

Have you achieved Expected Module Outputs ?

	←← 達成		未達成 →→	
	Fully Achieved		Unachieved	
	□4	□3	□2	□1
単元1	5	4		
単元2	5	4		
単元3	4	5		

研修員(a):

- ・講義や視察は、日本の廃棄物を学び知るうえで非常に役立った。

研修員(b):

- ・日本の市民意識を伴う環境教育の発展や市の廃棄物管理について良く理解できた。



研修員(c):

- ・日本の現状を知るうえで適切であった。

研修員(d):

- ・堆肥化プロセスを改善するための新しい技術が習得できた。

研修員(e):

- ・講義や視察で、マーケティングや流通戦略のツールやグットプラクティスを得ることができた。

8. 研修員への質問表(その2)

Q2. 単元目標は案件目標を達成する上で重要と考えますか？

Do you think module is important for you to achieve the Program Objective ?

	←← 非常に重要		重要でない →→	
	Very Important		Not Important	
	□4	□3	□2	□1
単元1	4	5		
単元2	7	2		
単元3	5	4		

研修員(a):

- ・各単元共に本研修の目的を達成する上で非常に重要であった。



研修員(b):

- ・この単元の内容は、非常に質が高く目的を達成するために重要であった。

研修員(c):

- ・素晴らしい単元であった。自国で問題となっている屠殺場からでる廃棄物の処理に関する項目を入れて欲しい。

研修員(d):

- ・非常に重要な単元である。

コンポスト(高倉方式)の研修

9. 研修アルバム



長崎大学での研修



赤崎小学校での研修



ぶどうの樹(株)での研修



おおき環境センターでの研修